



はたらく女性のフロアかながわ (WWFK)

〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町8-25-203 本間重子気付

電話/FAX 045(323)0653 E-mail wwfk@hotmail.co.jp

HP http://wwfk.jimdo.com/

「女性差別撤廃条約選択議定書」早期批准でアンケート

いま、全国の自治体で、「女性差別撤廃条約の選択議定書批准を求める意見書」の採択が行われています。3月現在、採択している自治体は194になっています。

神奈川では、12月7日に有志が集まり相談会を開催。差別撤廃条約実現アクション・かながわ（代表：湯山薫弁護士）を立ち上げ活動していくことになりました。

まず、最初に取り組むことは何か。丁度2023年は統一地方選挙があることから、県議会議員に立候補を予定している方々にアンケートを実施することになりました。

質問はシンプルに、次の3点にしました。

- ①ジェンダーギャップの現状を改善するために、神奈川県で実施することに効果があるとお考えの主な政策を3つ挙げてください。
- ②女性差別撤廃条約選択議定書の早期批准について①賛成、②反対、③保留か。その理由は。
- ③神奈川県議会で「女性差別撤廃条約選択議定書の早期批准を求める意見書」の採択をすべきか、①思う、②思わない、③どちらとも言えない。です。

2023年2月2日時点で立候補を予定されている方（インターネットとか新聞報道を調べ）136人にアンケートを送付しました。3月9日までに回答を寄せていただいた方は37人（27.3%）でした。送付者数と回答数については、表をご覧ください。なんと、政党・会派の中で自民党と公明党が回答ゼロでした。

【表】党・各会派の回答状況（政党・会派名は呼称で表記）

政党・会派別(略称)	立候補者数	内女性	女性比率	回答者 (政党・会派別)	回答者数	回答率	内女性	女性比率
自民党(自民)	50	4	8.0%	自民	0	0.0%	0	0%
立憲民主党・民権クラブ(立民)	30	8	26.7%	立民	10	33.3%	6	60.0%
公明党(公明)	7	3	42.9%	公明	0	0.0%	0	0%
共産党(共産)	12	5	41.7%	共産	12	100.0%	5	41.7%
国民民主党(国民)	6	3	50.0%	国民	1	16.7%	1	100.0%
日本維新の会(維新)	15	4	26.7%	維新	8	53.3%	1	12.5%
神奈川ネット(ネット)	2	2	100.0%	ネット	1	50.0%	1	100.0%
				民主	2		0	0.0%
無所属(無所属)	14	3	21.4%	県政会	1	35.7%	0	0.0%
				無所属	2		0	0.0%
合計	136	32	23.5%	合計	37	27.2%	14	37.8%

選択議定書の批准について「賛成」32人（86.5%）と多くの方が賛成です。「保留」5人（13.5%）、「保留」の内訳は、立民1人、無所属4人です。

「選択議定書早期批准」に賛成の方は、多くが「グローバルスタンダードだ」「女性を差別する合理的理由はない」と好意的でした。半面保留の方は、「国の仕事で県の仕事ではない」「早期批准はゴールではない」との消極的な意見でした。

県議会での「意見書の採択」の是非については、「思う」が32人（86.5%）と圧倒的でした。「思わない」は無所属2人。「どちらとも言えない」は立民1人、無所属1人。「保留」が無所属1人でした。「どちらとも言えない」の理由は、「国会議員の役割」「女性『だけ』を論点とするのは不十分」で、「保留」の理由は「意見書（文案）を見ないと判断できない」でした。

紙面の都合上、質問①の施策について述べることはできませんが、「政治や行政の場で各分野の政策・方針決定などに関わる女性や管理職の女性比率を高めること」「ジェンダー平等をすすめる県の機構の強化」「政治参加のためにクオータ制や出産・育児のための環境整備」などの意見がだされました。

今後、差別撤廃条約実現アクション・かながわでは、6月議会に向け、この結果をもとに新しい県議会議員に働きかけていくことにしています。

（報告：小島八重子）



春を待つ平和の母子像海光る
松尾佐知子

日本で100年目の国際女性デーに Webで参加して 中嶋ひとみ(会員)

私が3月8日の「国際女性デー」を意識するようになったのは、恥ずかしながら県職労連女性部の役員になってからです。女性部長から、国際女性デーのことを何かに書くように促され、にわか勉強しましたが、その時にあちこちの文献に伊藤セツさんの名前が載っていました。

今年も日本各地でいろいろな団体が国際女性デーのイベントを行っていましたが、日本婦人団体連合会が事務局になっている「3・8国際女性デー中央実行委員会」が伊藤セツさんを招いて記念講演をするということでしたので、これは見逃せないと思い、Webで参加しました。

伊藤セツさんの記念講演は「女性たちのたたかいが未来を拓くー日本で100年目の国際女性デー」というテーマでした。小笠原貞子やクララツェトキン、ベーベルなどという名前が出てきて、学生時代に読んだ古典や父親が選挙の時に話していたことなどを懐かしく思い出しました。

県職労連女性部時代のにわか勉強の時に、日本の国際女性デーの起源が、どうもすっきりしなかったことが今回の講演でようやく理解できた気が

がしました。「騙されないように！」と伊藤さんは言われていましたが、起源でさえも、新聞や政府の報道はあやしいということをお話していただきました。起源でさえも怪しげなら、言っていることとやっていることを鋭く見極めないともるで騙されると再認識しました。

女性たちが参政権を得られるようになった経緯は、歴史を紐解くと、第2インターナショナルやロシア革命、第3インターナショナルとのかかわりがあったということも再確認できました。

1923年の3月8日に赤蘭会が女性だけの講演会を開き、即刻解散させられた時代から今年は100年目です。今日では、国連が定めた日が、国際女性デーです。少しずつは変わってきています。これから一斉地方統一選挙が始まりますが、当たり前のように行使している選挙権をわれわれ女性たちは、もっと有効に行使しなければならないと感じます。自分たちの暮らしを向上させ、女性に対する差別を撤廃し、女性の地位向上をはからねばならない課題があります。平和を守りぬくように、国をも動かしていかないとはいけません。一歩ずつでも女性の解放に向かって前進したいと思いました。

2023年国際女性デー中央大会
2023年3月8日(水) 18:30~20:00
日本教育会館 一ツ橋ホール・オンライン併用
女性たちのたたかいが未来を拓く
ー日本で100年目の国際女性デー
伊藤セツさん

茅ヶ崎ゆかりの人物館と湘南ビール での楽しいランチ

本間 重子(会員)

丁度11年前(2012)1月21日、今回と同じ日に“平塚らいてうの碑の見学と湘南ビールでランチ”の会にいきました。

今回は2015年にオープンした茅ヶ崎ゆかりの人物館で企画展「クリエイターズ・イン・南湖院～平塚らいてうと保持研 南湖院と表現の日々～」が開催されていたので、茅ヶ崎ゆかりのらいてうの足跡をたどり、湘南ビールで野菜中心のランチをいただきながらおしゃべりを楽しみ明日への活力を補給した次第です。参加者は6人でした。

ところで南湖院とは、茅ヶ崎市にあったサナトリウム(結核療養所)で、最盛期には5万坪・12病棟の「ひとつの街」さながらの医療施設だったそうです。

企画展は、一部で創設者の医師高田畔安(こうあん)と女医たち、入院していた作家などを紹介し、二部で「青鞥」を発刊した平塚らいてうと

保持研(やすもちよし)をはじめとした女性たちの歴史を紹介していました。(一部神奈川新聞参照)

見どころは色々あって、じっくりと時間をかけて勉強したいと思いつつ展示館を後にしました。



↑バス停前で撮影。この奥の右手に「茅ヶ崎ゆかりの人物館」とその隣に「開高健記念館」があります。



↑湘南ビール・MOKICHIでランチをいただきながらおしゃべりしました。

君嶋ちか子がゆく②④ …神奈川県議会報告

学校に希望を取り戻す

【教員の多忙】

文部科学省調査によると、精神疾患で休職する教員は、2021年度5,897人。前年度より694人増加し、過去最多です。

また、全国公立学校の教員未配置は、2,558人に上ります。

神奈川県では、2022年度当初で241人の未配置が生じています。教員が2クラスの授業を同時進行、担任不在のため成績がつけられなかったなど、子どもの学ぶ場が保障されない事態が進行しています。

このままでは、教員の仕事は厳しいから希望しないという傾向に拍車がかかり、教員の確保は困難になるばかりです。

【一方で、子どもは】

小中学生の不登校数は、2021年度文部科学省調査によると全国で244,940人と過去最多。県内の同年度公立小中学校不登校数は16,656人。小学校は過去最多です。

教員多忙化だけが原因とはいえませんが、ゆとりある教育現場を取り戻せば、事態は変わります。不登校のわが子が先生から話しかけられ、



「先生と話したのは初めて」と喜んでいて、保健室登校の生徒が、養護教諭の忙しさを見て「自分が行く場所じゃない」と保健室にも行けなくなった、等の話が保護者から寄せられています。

【事態を変える】

2022年度の政令市を除く県内公立学校の正規教員募集数1,130人に対し、受験者数4,517人。応募者数は減少しているものの、正規雇用の確保は可能なのです。この時点で、臨時的任用予定数は2,123人。名簿登載者が枯渇し、臨時的任用を確保できずに欠員が生じています。

私は、全て正規雇用とすることを求め続け、新年度に向けての正規採用は例年より増やすことができました。今後も教員の正規化は必須です。

また、欠員問題以前から教師の多忙は大きな課題でした。教員ひとり当たりの授業数が多すぎることに加え、学級の生徒数が多すぎます。この忙しさが教員を希望する若者の志をくじいています。

教職員定数に関する法律を変え、大幅な定数増を図ることで

子どもも教員も喜びを感じながら、子どもが生きる力と学力を身につける場として学校を取り戻すことは、喫緊の課題です。

映画が好き

「ケイコ 目を澄ませて」 池田 資子(会員)



公開は12月だったと思う。やっと観る事が出来た。

「目を澄ませる」という表現があるの

だろうか。耳の聞こえないケイコにとって目は重要だ。コロナ禍でマスクを着用していると、唇を読む事が出来ない。コンビニの店員との対応、人にぶつかって怒鳴られても聞こえない。ボクシングの試合では、ゴングの音もトレーナーの指示も聞こえない。

ケイコは何故ボクシングをするのか。昼間はホテルで清掃員として働き、夜はジムに通う日々。激しいトレーニングをこなしてその日の練習の記

録を日記に記す。一体何を求めているのだろうか。初戦に勝利し、2回戦も何とか勝ち抜いたが、3回戦を控えて気持ちが揺らぐ。そんな時にジムの会長の病気と再開発による立ち退きで、ジムを閉めることになった。

迷い、不安、闘う恐怖…ジムの会長は「厭なら止めてもいい」という。闘う気持ちが無ければ怪我をするし、相手にも失礼だと。そして、試合の日を迎える。ケイコは完敗する。いつもの川岸でぼんやりしていると、昨日の試合の相手が作業服姿で挨拶をしていく。彼女も働きながらボクシングをしているのかと思った時、ケイコの気持ちが定まったような微笑みが見えた。

この作品は耳の消えない実在の元プロボクサー小笠原恵子さんをモデルにしている。16ミリフィルムで撮影され、劇伴（映画やドラマなど視覚作品に合わせて流される音楽）が無い。自然の音だけ。技術的なことは分らないが、懐かしいモノクロ映画を観ているような感じがする。静かな画面から伝わってくるものがある。

主演の岸井ゆきのさんは、ボクシングにふさわしい身体作り、パンチング、手話の勉強など役作りに取り組み、見事な演技だった。

コロナ奮戦記

伍 淑子(会員)

新型コロナウイルス感染症が地球規模で広がって早4年になる。人類は、地球上に誕生した時から自然界に存在するウイルスとの闘いだったと聞いたことがある。いまでも人類が存在しているということは、これまで様々なウイルスに耐性をもって克服してきたことになる。

3月に入り政府の無策ぶりもあって、国民の間に「コロナ慣れ感」が広がっている。5月にも5類にするという。しかし、医療現場からは警戒する意見が続出している。まったくその通りだ。一番とばっちりを受けているのが医療現場であり、介護施設だ。「行政改革」により保健所体制が脆弱なことで、市役所職員を長時間労働に追い込み、市民サービスは低下。

薬が苦手な私は、ワクチンという異物を体内に注入することなど論外だと受けていなかった。いってみれば、臆病のひとことにつきる。ところが2023年小正月を過ぎた頃、なんとなく風邪っぽい、と気になった。風邪とは少し症状が違った。鼻の奥からのどにかけてやたらとピリピリと痛んだ。セキもひどい。熱を測ると38度。おかしいと思って薬剤師のいる薬局でコロナウイルス抗原検査キットなるものを買ってきた。1個1500円。自己判定の結果は陽性。翌日から外出は止めた。のどの痛みとセキのひどさに加えて、食欲がゼロ、やる気スイッチも作動せず、という状態が10日ほど続いた。14日位で陰性になった



が、体力は復活しない。一つ気付いたことがある。体重は2kg減ったが、髪の毛がいつものように伸びなかった。人間の体とは不思議なもの、命を守るために必要なところに栄養分をまわしたのだろうか。結果的に新型コロナの免疫を獲得できた。

陽性者の数は現在も発表されている。しかし、私のように通報もせず、病院に相談もしないというけしからん輩がいるとしたら、あの数字は実態を反映していないことになる。当初は行政から罹患家庭に食料や生活必需品が届いていたが、昨年頃からまったくなくなり、自己責任と周囲の助け合いに任されていた。周囲の心配をよそに当の本人は一向に心配することもなく、それでも2カ月ほどは疲れやすい状態が続き、3月を迎えてようやく復活。多忙な毎日が戻った。

この新型コロナウイルスのまん延は、様々な社会の矛盾と格差を可視化した。働き方はリモートワークで在宅、学校は休み、仕事を失い生きる意欲をなくす、結果心が折れる。商店は客が減り倒産・廃業に追い込まれた。高齢者は、周囲から外出も止められ、対話もままならなかった。人間は本来集団で生きる動物。高齢者が人との交流の機会をなくすと認知症がすすむという。自然に逆らうことの弊害も含めてこれからの対策が求められる。人類の歴史に残る21世紀のコロナ感染症発症は、どのように次世代の人々に伝えられるのか。きちんと医学、経済、政治、人権などあらゆる方面から結果を分析し伝えていく責務があるのではないかと。ジェンダーの視点で見たらどうなのだろうか。私自身の生き方は少し変化した。

お・知・ら・せ

★女性のための女性による相談会@かながわ・川崎

5月13日(土) 11時~18時 川崎市産業振興会館

なんでも相談・カフェ・マルシェ……

★女性労働問題研究会・研究例会1★オンライン

5月21日(日) 14時~16時

「日本における100年—『国際女性デーの世界史』を書くプロセスで分かったこと—」

講師:伊藤 セツさん(昭和女子大学名誉教授・女性労働問題研究会会員)

★第31回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの全国集会

6月3日(土) 13時~16時30分 全体会:神奈川県民ホール

シンポジウム 「多様な働き方の実態」~みんなで考えましょう~

6月4日(日) 9時30分~12時 分科会・講座 Lぷらざ、ワークピア横浜、市従会館他